令和５年度第４回
瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会　議事録

日時：令和６年３月１８日（月）　午後６時００分から午後８時２０分
場所：瑞浪市役所　西分庁舎１階会議室

出席委員：山内　正雄(委員長)、辻本　紀み子（副委員長)、平中　学、柴田　洋子
谷本　陽子、大宮　康一
※委員６名中６名の出席であり、委員の過半数の出席となり、瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会規則第６条第２項の規定により、本会議は成立。

事 務 局：瑞浪市長　水　野　光　二
：まちづくり推進部長　小木曽　昌　弘
：市民協働課長　加　藤　博　史
：まちづくり支援係長　正　木　麻　子
：まちづくり支援係　中　筬　高　弘

日　　程：
１　あいさつ
２　ステップアップ事業審査の進め方について
３　ステップアップ事業審査
４　市民活動補助金事業審査の進め方について
５　市民活動補助金事業審査
６　全体講評
７　事務連絡
８　閉会

【１．あいさつ】
≪市長あいさつ≫
本日は、令和５年度第４回夢づくり地域交付金等事業審査会に、委員の皆様には早くからお集まりいただき、誠にありがとうございます。夢づくり地域交付金事業は、陶町及び大湫町では４０年近く、新しい地域においても２０年近く取り組んでいただいており、大きな成果を挙げていただいております。一方で、長年継続する中で、取組が固定化している地域もあります。特に、役員の固定化や高齢化が進み、若い人材への世代交代が十分に進んでいない地域があるなど、それぞれの課題も見えてきております。改めて、本事業は高い評価をいただいており、今後も継続していく必要があるという点については、共通した認識であります。しかしながら、事業内容については見直しが必要であることから、大湫町における取組の成果も参考にしながら、各地域において地域計画を策定することとなりました。各地域では、今後１０年間のビジョンについて、１年をかけてワークショップ等を実施し、議論を重ねていただきました。２月には発表会を予定しており、それぞれの地域の特色を生かしたまちづくりのビジョンが取りまとめられるものと考えております。今後は、この計画を実現していかなければなりません。そのためには、人材の確保を進めるとともに、地域の皆様が描く将来像や夢の実現に向けた取組を始めていただく必要があります。令和６年４月からは、新たな１０年間の取組が始まります。

本日は、日吉町からステップアップ事業の提案があるほか、３団体から補助金に関する提案があります。今年度は市制施行７０周年の節目の年でもあり、その節目にふさわしい事業となることを期待しております。委員の皆様におかれましては、忌憚のない御意見、御質問を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

≪審査委員長あいさつ≫

先日、ある町を訪問しました。以前は、国道沿いに店舗が立地し、その周辺には田園が広がっていましたが、久しぶりに訪れると、「商業集積地」との看板が設置されるなど、まちづくりが進展していると感じました。地域ごとに特色を生かしたまちづくりを進めていくことは重要であると考えます。本日の審査会においても、そのようなまちづくりにつながる内容について審査が行われることを期待しております。

【２．ステップアップ事業審査の進め方について】

≪事務局より説明≫

【３．ステップアップ事業審査】

日吉町まちづくり推進協議会（以下「日吉」）

●委員

特産品開発の取り組み内容を拝見し、しっかり計画されていると感じた。既存の大型乾燥機を小型にされるということだが、既存の乾燥機は下取りに出されるのか。または、不用品となってしまうのか。予算書に値引きの項目が多数あるがどのようか。また、講座等を開催されてはどうか。

〇日吉

既存の大型の乾燥機も新施設に設置する。小型を導入する理由は、個人の利用に対応するためである。

●委員

営業許可証について、責任者はまちづくり推進協議会の代表者か。

〇日吉

集落支援員が調理師の資格保持者であるため、集落支援員を責任者とする。

●委員

移転後の生産量及び雇用の創出はどのようか。

〇日吉

生産量について、シイタケ栽培は原木の数が限られているため横ばいである。日吉町に合った農産物を中部大学等とともに検討し、農作物が決まれば、耕作放棄地を活用しながら生産するため、雇用が生まれる可能性がある。営業許可等の届け出をするため、地区で作ったものを製品化、販売したいと考えている。

●委員

講習会等の実施予定はどのようか。

〇日吉
　原木しいたけの栽培に取り組み始めた際には、植菌の方法や原木の選び方に関する講習会を複数回開催したものの、原木を十分に確保することが難しい状況が続き、現在に至る。加工所が整備された際には、ドライフルーツづくりの講習会を開催することも考えている。あわせて、個人がこの施設を利用し、それぞれが加工品を製造できるようにすることも想定している。

●委員
　例年の事業においても特産品の開発に取り組まれている。しいたけ栽培による売上については、地域住民に広く還元されているとのことだが、具体的にどのように活用されているのか、改めて伺いたい。

〇日吉
　日吉町の場合、市から約９０万円の夢づくり地域交付金を受けている。これに加え、自主財源として、しいたけ事業の売上が５０万円余りある。また、河川清掃や東海自然歩道の草刈りなどを委託事業として受けており、これらを合わせると、２００万円以上の財源となる。しいたけ事業による収入の約５０万円は、主に加工所の運営費に充てており、電気代、水道代、家賃などに使用している。

＜市長コメント＞
　特に注目したいのは、中部大学との連携により、新たな特産品開発に取り組まれる動きがあることである。私からもお願いしているところだが、市民活動に取り組むグループの中には、ミネラル豊富なふりかけを作りたいと考えている団体もある。準備が整い次第、ぜひ連携を図っていただきたい。
　また、計画どおりに事業を進めていただくとともに、必要な各種許可を取得していただくことで、それぞれの商品開発を企画している方々が、加工した商品を販売できることにもつながる。まずは、皆さんが安心して利用できるよう、必要な許可を確実に取得し、衛生面にも問題のない施設として整備していただきたい。そして、多くの市民の皆さんが、それぞれの思いを持って活用できる施設となることを期待している。

【４．市民活動補助金事業審査の進め方について】
　≪事務局より説明≫

【５．市民活動補助金事業審査】
美濃源氏大太鼓保存会（以下「保存会」）
●委員
　大変良い取り組みであるため、ぜひ継続していただきたい。
〇保存会
　保護者の方々から伺うと、練習が週に１回しかないため、自宅で座布団をたたいたり、風呂場でリズムを刻んだりして練習する姿が多く見られたそうである。それだけ楽しく取り組んでいたのだと思う。一方で、楽しさの中にも、会として一定の厳しさは必要である。特にあいさつについては、これからも大切にしていきたい。

●委員
　参加対象である瑞浪市内の小学生への周知は、どのように行っているのか。
〇保存会
　昨年度は、瑞浪市の校長会に参加し、事業の説明を行った。釜戸地区には青龍太鼓があるため、昨年度は釜戸地区からの参加はなかったが、原則としては市内全小学校に参加を呼びかけており、各地区から参加いただいた。
　今年度については、青龍太鼓にも確認を取り、青龍太鼓に取り組んでいる子どもたちにも参加してもらえるような形で進めることとなった。改めて校長会に協力をお願いし、釜戸地区の子どもたちを含め、参加の方向性を検討していきたいと考えている。

●委員
　定員２０人は、厳格に定められているのか。
〇保存会
　定員２０人が、指導・運営上の限界である。太鼓の数に限りがあるため、現在は一部を借り受け、同時に太鼓をたたける人数を１０人まで確保している。
　練習では、後方に設置したタイヤも使用し、１０人ずつ交代して練習を行っている。参加者がこれ以上増えると、十分な指導が行き届かず、中途半端な内容になってしまうと考えている。そのため、保存会として責任を持って指導できる人数は２０人であり、申込みが定員を超える場合は、先着順での受付となる。

●委員
　参加者を小学生に限定する理由は何か。中学生は参加できないのか。
〇保存会
　小学生と中学生では技術や理解度に差があり、合同で指導すると小学生がついていけなくなるおそれがあるため、参加者を小学生に限定している。指導は習得に時間のかかる子どもに合わせて行っており、中学生は別途、中学生のみを対象とした教室で実施することが望ましいと考えている。なお、一般向けの太鼓教室も開催している。

●委員
　現在のメンバーを中心として、組織強化に向けた対策はあるのか。また、今後、組織の規模を拡大していく考えがあるのか。
〇保存会
　設立の経緯としては、瑞浪市商店街連合会の太鼓として始まったものである。当時は７つの商店街があったが、現在は徐々に衰退し、商店街連合会という組織自体も小さくなっている。保存会もそれに伴い、規模が縮小してきている状況である。何らかの対策を講じなければならないという強い思いはある。現在は、商店街連合会と今後の在り方について協議しながら、よい方法を模索しているところである。
●委員
　私自身、最も大きい太鼓を最初に直接見た一人である。せっかく貴重な資産があるため、それを絶やすことなく生かしながら、活動を続けていただきたい。

＜市長コメント＞
　大変素晴らしいプレゼンテーションをしていただき、活動内容について詳しく理解することができた。特に、将来を担う子どもたちを集め、礼儀作法も含めて指導していることは、大変

重要な取組であると感じた。先ほど委員長からも話があったとおり、さまざまな御苦労があるとは思うが、少しでも活動を継続していただきたい。この活動が今後も続いていくことを願っている。

瑞浪暮らしの彩りマーケット実行委員会（以下「彩りマーケット」）

●委員

市場のギャップとは、具体的にどのようなことか。

〇彩りマーケット

市民にはマーケットを求めるニーズがある一方、実際には開催されていないという状況にギャップがあると感じていた。

●委員

クリエイターは市内の方が増えているのか。近隣市の方が多いように感じるが、実態はどうか。

〇彩りマーケット

作り手の増減はなく、横ばいである。応募時に居住地域を確認しており、状況は把握している。「整うマーケット」は、瑞浪市の方に販売する側として参加していただくことを目的の一つとして立ち上げたものであり、出店者の大半は市内の方である。身近な場所で活動できる場をつくり、今後はクリエイターも増えていくことを期待している。公園への来場のきっかけづくりとともに、市民の活動の場を広げていきたい。

●委員

構成員を増やす計画はあるか。

〇彩りマーケット

構成員の拡大を考えている。若い方から年配の方まで、運営やボランティアとして幅広く関わっていただきたい。次回開催の整うマーケットでは、初めて一般向けにボランティアを募集し、既に応募もある。瑞浪市を一緒に盛り上げる方を増やしていきたい。

●委員

ナイトマーケットと整うマーケットでは、客層にどのような違いがあるか。

〇彩りマーケット

ナイトマーケットは、親子連れや祖父母を含む三世代の来場が多い。また、名古屋方面から電車で来場する方もおり、広い地域から来場いただいている。

整うマーケットは、地元の方の来場が多い。特に、掘り出し物を探す若い子育て世代の来場が多いと感じている。

●委員

瑞浪らしさを出すための工夫はあるか。

〇彩りマーケット

マーケットのロゴを取り入れるなど、業者と打合せを進めながら、瑞浪らしさを表現していきたいと考えている。

●委員
　関係者用駐車場の整備や草刈りを進めてほしい。また、出店者の搬入・搬出についても課題があるため、道路使用を含め、安全に実施できるよう対応してほしい。
〇彩りマーケット
　承知した。

＜市長コメント＞
　実績を着実に積み重ね、有効に予算を活用している点を高く評価する。特に昨年度のナイトマーケットでは、平山地区の取組や、ミライ創ろまい課による高校生の参加など、さまざまな場面で地元の方の参加を受け入れ、関係者と連携して取り組んだことに感謝する。令和６年度は市制７０周年の節目の年である。今年度のナイトマーケットについても、多くの市民を巻き込み、盛大で、参加者の思い出に残るものとしてほしい。整うマーケットについても同様に、積極的に取り組んでいただきたい。瑞浪市に刺激的で新しい風をさらに吹き込んでいただくことを期待する。

一般社団法人瑞浪青年会議所（以下「青年会議所」）
●委員
　事業の目的として自己肯定感等の向上が掲げられているが、自分の命を守ることも目的に加えてほしい。単発で終わらせず、継続して実施していただきたい。
〇青年会議所
　本事業は小学生を対象とし、毎年実施できる事業として定着させたいと考えている。こうした取組を広げ、継続的に実施できる事業としていきたい。

●委員
　水泳を取り上げた背景には、水泳授業の減少により泳げない子どもが増えていることや、毎年水難事故が発生していることがあり、よい機会であると考える。
　参加費を３，０００円としている理由は何か。また、「自己肯定感・自己効力感の向上」と「絶対泳げる」という事業名は、保護者に受け入れられる内容となっているか。
〇青年会議所
　参加費については、できる限り参加しやすい額に抑えるため、３，０００円としている。過去に瑞浪市で実施された水泳教室では、参加費９，０００円でも多くの参加者があったと聞いている。本事業では講師や会場の費用が必要であり、参加費を無料とすることは難しい。一方で、青年会議所からの支出や企業からの寄附などを活用し、参加者の負担を抑えた上で金額を設定した。
　「絶対泳げる」については、６回の教室を通じ、段階的に水泳技能を身に付けられるようにする。コパンと協議し、達成項目を示すチャレンジシートを作成している。泳げるようになる程度には個人差があるが、一人ひとりの成長を褒め、認めながら指導する方針である。
　自己肯定感・自己効力感という言葉は分かりにくい面もあるため、保護者への説明を丁寧に行い、事業内容や言葉の意味を含めて理解を得たいと考えている。

●委員
　課題設定について、改めて確認したい。また、子ども目線での説明が少なく、親のための事業と受け取られるおそれがあると感じた。子どもの視点を重視し、子ども自身が参加しやすい

事業としてほしい。子ども向けのメッセージを明確にし、子ども自身も満足できる事業にしてほしい。

〇青年会議所

本事業は、子どもの自己肯定感と自己効力感を高めることを目的としている。挑戦や成功体験を通じて自己効力感を育み、保護者からの愛情を感じることを通じて自己肯定感を高める考えである。種目を水泳に絞ったのは、子どもの挑戦を具体的に支援し、水泳教室などを通じて体験の質を高めるためである。また、水泳をしたい子どもが多い一方で、利用できる施設が少ないとの声を踏まえ、水泳に挑戦する機会を設ける必要があると判断した。

事業の主役は子どもであり、市や保護者は子どもの挑戦を支える役割である。今後は、子ども自身が参加しやすく、満足できる内容となるよう、子ども向けのメッセージや事業内容を改善していく。

＜市長コメント＞

今回は、水泳という種目に絞り、子どもたちが「できる」という達成感を味わえるようにするという着眼点は、大変良いものだと感じた。やはり、子どもたちに自信を持たせることは大切である。特に水泳は、水に慣れていない子どもにとっては怖さを感じるものだと思う。その中で、どこまでできるようになるかは分からないが、一人ひとりにとって大きなチャレンジになるのではないか。水泳を選ばれたことについても、良い効果が期待できると思う。また、保護者の皆さんも巻き込みながら、地域全体で子どもたちを見守っていくという取組も、大変意義深いものになるのではないかと思う。本日の内容をしっかりとまとめていただき、委員の皆さんからのアドバイスも参考にしながら、ぜひ成果につながる事業として進めていただきたい。

【６．全体講評】

≪市長より講評≫

各発表者が事業内容を十分に検討し、熱意を持って取り組んでいることが伝わった。また、事業に対する思いとともに、分かりやすく説明しようとする姿勢が感じられた。発表を重ねる中で、説明もより分かりやすくなってきている。

今後は、それぞれの事業が目指す成果につながるよう取り組むとともに、本日示された意見や助言を十分に反映し、より効果的で質の高い事業として進めてほしい。

【７．事務連絡】

≪事務局より説明≫

【８．閉会】

≪まちづくり推進部長より閉会のことば≫

以上